

兄物語

SMの友人

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ある日、ドラゴンボールの世界に孫悟飯の双子の兄として転生していた主人公
原作知識を思い出すことが出来ず、不安が渦巻く中

自分を鍛え上げ、家族を、仲間を、自分自身を守り生き抜く物語

目次

誕生!!

孫悟黒!!

—
1

誕生!! 孫 悟黒!!

「んう、う〜ん」

「おっ！起きたべか。お〜い、悟空さ〜。悟黒が起きたべよ〜!!」

「ホントかチチ!? お〜いお父ちゃんできちよ〜」ベロベロば〜

「きやははは」

「おっ、悟飯も起きてたか。」

「じゃあ飯にすんべ。悟空さ、その間子供の世話よろしくべ。」

「おう。任せとけチチ。」

（ん？これはどういうことだ？なんか目を開けたら、某人気キャラクターが目の前にいたんですけど!? これはなんだ??）

　　周りを見渡すと赤ちやんが一人、某人気キャラクターこと孫悟空がいた。

（全くもって意味が分からん。さっきまで家でハーメルン読んでたはずだ。何でドラゴンボールの世界にいるんだよ!?!）

（落ち着こう。もう一度状況を確認しよう。俺はなぜ知らんがドラゴンボールの世

界にいる。周りには悟空と赤ん坊、たぶん悟飯だろう。さっきも悟飯って呼んでたし。そして悟空はさっきからお父さんと言っていて、俺の体は小さくなって・・・ん？小さくなって?・・・小さくなってるく。

(俺の体小さくなってるよ。もう一度落ち着こう。。。もう小さくなってるのは仕方ないとして、問題は俺がこの世界にいるということだ。別に現実で死んだわけでも、神に選ばれたわけでも無いが俺がここにいることによつて原作が変わると言うことだ。)

「悟黒でいじよーぶか? 楽しくなさそーだが」

「あうあう (大丈夫)」

「まあいいか。ほら、ベロベロばく」

「きやつははは!!」

「お? 悟飯はこれが好きなんだな。」

俺の名前は悟黒っていうらしい。悟飯は悟空のベロベロばくが好きなようだ。

そうやって悟空と悟飯の微笑ましい光景を眺めながらそう思っていると、イイ匂いがしてきた。

どうやら飯ができたようだ。

(考えるのは後にしてまずは飯を食べよう)

あれから年月がたった。

え？その間にながあつたか書けて？いや、書くことあんま無かつたからね。

ぶつちやけいとうと、書くの面倒くさいからカット。

あれから分かつたことやしてきたことを簡単にまとめると。

・俺は悟飯の双子の兄

・悟黒っていいからそうだから、クロって呼んでもらつてる

・原作知識は記憶に霧がかかっているように思い出せない

・前世の名前も同様

・ただ勉強の知識はある（悟飯に勉強教えたりもしている）

・原作知識がないから修行をした。

結果はまだ速度は遅いが舞空術。気弾も撃てるようになった。気も一応探れるようになった。

今は、舞空術の練習に気弾のコントロール。気の抑え方、気を全身に纏わしたり一点に集中させたりいろいろやっている。

「クロちゃん。勉強はどうだべ？」

「うん、順調だよ。悟飯はどうだ？」

「あともうちよつとだよクロにい！」

「おおく偉いぞ悟飯」ナデナデ

「えへへ／＼／＼」

「お？勉強終わったか？明日亀仙人のじつちゃん家行くから準備しとくんだぞー」

「はーん」

翌日

「クロちゃん、悟飯ちゃん忘れ物ないだべか？歯ブラシ持っただか？」

「大丈夫だよお母さん忘れ物はないよ」

「あつちでいい子にしてるだよ。武天老師様に迷惑かけたらアカンだよ。勉強もキチン

とするだよー」

「心配しないでお母さん。悟飯の面倒は俺が見るから」

「クロはお兄ちゃんだべな」

「オラもそう思う。じゃあ行ってくるチチ。」

「行ってきますお母さん。」

「行ってくるよお母さん。」

「じゃあいくぞ！キントーン!!!」

ビュウーン

「しつかり捕まっとけよ。クロ、悟飯」

「あつちでも元気にしてるだよ。」

「うん。行つてきまーす。」

「バイバーイ」